

令和5年度鏡川流域関係人口創出・拡大業務 公募型プロポーザルに関する質問及び回答

令和5年5月17日（水）

質問事項・内容	回答
<p>1 仕様書中「(1)流域内関係人口の創出（流域内人材育成講座の開催）」及び「(2)流域外関係人口の創出（流域外から人の流れを作る講座の開催）」の「ア 指標」について</p> <p>(1)のスポットとしての指標が「つながりランク5」なのに対して、(2)のスポットとしての指標が「つながりランク4以上」と、違いがあるのはどのような理由からでしょうか。</p>	<p>受講者には、鏡川流域関係案内人として、まちのコインの「ユーザー（関係人口）」としてだけではなく、スポット（自らが起点となって関係人口を広げる鏡川流域関係案内人）としての役割を求めています。</p> <p>鏡川流域関係案内人として稼働していることを示す指標には、まちのコインのスポットとしての「つながりランク」を用いますが、流域外の受講者は、流域内の受講者よりも距離的な制約などもあることから、流域内の受講者よりも低く設定しております。</p>
<p>2 仕様書中「(3)流域内・外関係人口の拡大(プロモーション)」の「ア 指標」について</p> <p>業務の指標がぼっちりの「ユーザー数 3,000 以上」、「スポット数 300 以上」、「体験された数 5,000 以上」とありますが、それぞれその数字の元となった考え方や拠り所がありましたら教えてください。</p>	<p>当該業務により解決したい課題「鏡川流域の自然等に関わる人の減少」の推移を踏まえると、多様な人の多様な関わりを可能な限り増やしていくことが求められます。とは言え、当面の実現可能な指標として、「まちのコインを導入している他地域の数値」や「本市のこれまでの実績」を踏まえて総合的に判断した数値を指標としております。</p>